



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：サウジ人若年労働者の飲食業界への意識 (9日付サウジ・ガゼット紙)

9日付サウジ・ガゼット紙は、サウジ人の若年の職種に対する意識調査の結果と労働大臣の反応について報じた。

1. 最近の調査によると、サウジ人の若者がレストランやコーヒーショップの店員等飲食業界で働くことに関して、サウジ社会が長年「社会的に不名誉な職種」と見なしているため、97.5%の人が嫌悪感を持っているという結果が明らかになった。
2. ジェッダ商工会議所のホスピタリティー委員会が火曜日にジェッダにて開催した会合で、同委員会によって上程された上記内容を含む「これらのセクターにパートタイムあるいはフルタイムのサウジ人の若者従業員を就かせる」提案に対して、同会合に出席していたファキーフ労働大臣は歓迎し、このセクターでサウジ人の若者に対する職業訓練と職能の発展を行うためのメカニズムを構築することの重要性を述べた。
3. 同大臣はこの職業訓練プロセスには人材開発ファンド（HRDF）とサウジ職業訓練公社（TVTO）と民間企業が取り扱うべきであり、ビジネスマンに対してサウジ人の若者がこれらのセクターでの就職意欲を高められるように、職場環境のさらなる改善を行うよう促した。
4. 同会合では同セクターにおける職業のサウジ人化政策（サウダイゼーション）の遅延についての問題点や障害について焦点が当てられた。ファキーフ労働大臣はこれらの意見に対して率直に耳を傾け、それらの問題について労働省へ書面で報告するよう指示した。